

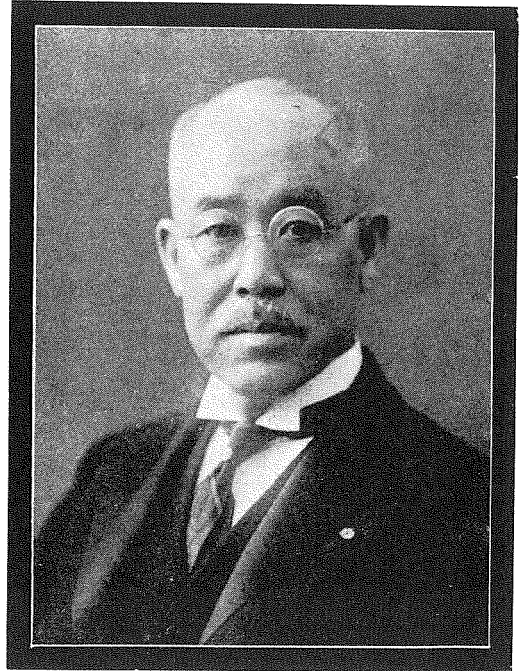
## 工 學 博 士

### 廣 田 理 太 郎 先 生

日本鑛業會々長、煖房同業協會々長、鐵道協會監事、東京帝國大學工學部講師等の要職にあつた工學博士廣田理太郎氏は今夏流行性腦炎に罹り帝大眞鍋内科に入院治療せられたが其効なく遂に九月二日溘然として長逝せられた。享年七十一。

葬儀は九月五日青山齋場に於て莊嚴に執行されたが、秋雨煙る式場には朝野の名士約一千五百名が會葬され、近來稀に見る盛儀であつた。

博士は廣島縣福山の人、慶應元年に舊福山藩勘定方廣田紋三郎氏の長男として生れた。明治20年工部大學を卒業後、第一絹糸紡績株式會社の創立に盡力され同社に技師として入社、次で尾小屋鑛山技師に轉じ、後高田商會支配人を經て同商會の監事となられた。而して圓滿なる人格と、豊富なる學識經驗とを以て各般の事業を指導せられ、後進の信望を蒐



められてゐたのであるが、不幸にも病魔の犯すところとなり病むこと僅かに三日にして急逝せられたのである。洵に痛惜極りなく、哀悼の涙を禁じ得ない次第である、因に博士は鐵道省建設局技師廣田孝一氏の嚴父である。

### 土木學會祝賀會

社團法人土木學會に於ては會員五千人突破の盛況を祝する意味にて、九月二十五日午後五時半より鐵道協會大食堂に於て祝賀晚餐會を催した。

出席會員約百四十名に達し土木學會の晚餐會としては非常な盛會であつた。デザートコースに入るや會長青山士氏滿場の拍手に迎へられて立ち、今日の喜びを會員と俱にすべく創立以來の先輩の功勞を謝し、會勢の經過を報告し將來の使命と覺悟に就いて會員一同の自覺を促す意味の挨拶があつた。次いで前會

長名井博士立ちて創立當時の主事として懷舊談を述べられ、次に前會長那波博士立ちて創立當時の編輯に就て述べられ、次いで近新三郎氏、加賀山學氏、松浦圓四郎氏、松永工氏等の夫々潑刺たるテーブルスピーチありて、終りに創立當時の役員の一人たりし岡田竹五郎博士の發聲の下に土木學會の萬歳を唱して閉會した。

尙當夜は別室に於て内務技師金森誠之博士の作になる映畫「酬いられぬ人」の上映があつた。青年技師が工事に對する努力と、男女の純情、洪水、水防、水門工事等を配した土木工事映畫としての大作であつた。